

# 令和2年度 事業報告

## I 公益目的事業に関する事項

令和2年度においては、公益目的事業として、農業及び農村に関する調査研究、農業及び農村に関する調査研究の成果の普及、農業及び農村に関する調査研究の助成並びに農業及び農村に関する学術上の顕著な貢献をした者の表彰に係る事業を行った。

### 1 農業及び農村に関する調査研究

#### (1) 研究員による個別研究

各研究員の研究成果を『農業研究』に掲載した。(別添参考1)

- ① 小澤健二研究員「2000年代のアメリカの農業政策の展開とその特質 (2)  
－トランプ政権下の農業政策を中心に－」
- ② 八木宏典研究員「平成後期における食料消費の多様化に関する一考察」
- ③ 坪田邦夫研究員「PSE指標から見た主要国農業政策の動向」
- ④ 両角和夫研究員「北海道にみるネットワーク型農協としての地区農協連合会  
－オホーツク農協連を事例として－」
- ⑤ 田家邦明研究員「戦前の自由取引時代の研究から見る米市場の今  
－東畑精一が展望したもの－」
- ⑥ 小川増弘研究員「自給飼料を利用した和牛繁殖の実証的調査研究 (8)」

#### (2) 研究会方式及び研究企画委員会方式による研究

研究会の2テーマについて、研究員が主査となって外部の研究者と本研究所研究員から成る委員会を設置し、また、研究企画委員会について令和元年度から発足し、それぞれ以下のとおり研究を行った。

##### ① アジア食料農業政策研究会

主査 坪田邦夫研究員

平成29年度から標記テーマについて調査研究を行っており、令和2年度については、これまで検討対象としてきた諸国の食料・農業政策について、最新の動きを取り入れその分析結果の再検討を行った。

##### ② 地域農業事情に関する研究会

主査 田家邦明研究員

平成29年度から標記テーマについて調査研究を行っており、主査による現地調査による京都府京丹後市に関する行政機関及び生産者から状況の聴取を行ったほか、zoomを使用したオンライン形式での研究会を1回開催した。また、個別に報告書を出版した。(別添参考1)

##### ③ 農業・農村の諸課題に関する研究企画委員会

農業・農村の諸課題について、興味深い論文を発表した研究者等を招聘し、報告を聴取し、意見交換を行うとともに、その者の了解を得て関係資料等についてホームページに掲載し、関

係者に対し情報公開するとともに、一部を『農業研究（別冊）講演会記録』に掲載した。

## 令和2年度研究企画委員会

第1回（令和2年7月6日開催）〔講演会記録に掲載〕

講師：堀口 健治

「ヒラから幹部にまで広がる農業従事の外国人労働力」

第2回（令和2年7月15日開催）

講師：岩間 浩、久納 寛子、井上 崇、岡本 浩一

「新たな食料・農業・農村基本計画について」

第3回（令和2年8月25日開催）

講師：平形 雄策

「米をめぐる状況について」

第4回（令和2年9月29日開催）〔講演会記録に掲載〕

講師：小松 真知子

「生産現場35年からふりかえる一経営変遷のキーとなる雇用事情一」

第5回（令和2年10月6日開催）〔講演会記録に掲載〕

講師：青柳 斉

「米消費の減少と中食化の世代別分析―公表の食料消費統計に依拠して―」

第6回（令和3年1月12日開催）

講師：神崎 淳一、松本 隆宏、栗山 怜

「2020年農林業センサス結果の概要（概数値）―農業経営体の減少が続く中で、法人化や規模拡大の発展が継続―」

### （3）農業及び農村地域の動向に関する調査研究

農業及び農村に関する調査研究を行っている若手研究者を研究員に委嘱し、地域の動向に関する調査研究を行うこととし、令和2年度においては、引き続き、森田明氏（宮城大学食産学群教授）、山浦陽一氏（大分大学経済学部准教授）、小澤 卓氏（公益財団法人日本離島センター調査研究部）に委嘱した。

その調査研究成果（森田明氏「震災後10年目の津波被災地（宮城県）―農業経営，新型コロナの影響―」、山浦陽一氏「中山間地域の農業公社の課題と可能性―定点観測3―2」、小澤卓氏「離島農業における生産額の変化と地域特性に関する分析」）を『農業研究』に掲載した（別添参考1）。

### （4）実験農場における調査研究

農場において、専任職員と研究員を置き、飼料生産部門と家畜飼養部門を併営し、粗飼料について可能な限り自給することを目指した繁殖経営を行っている。その内容・成績及び実践を通じて飼料生産面、家畜飼養面において明らかになった課題や講じた改善策について、農家に対する参考情報として『農業研究』に掲載するとともに、生産した育成牛を茨城県内の市場に出荷することにより、地域における素牛資源の供給に貢献した（別添参考2）。

なお、実験農場の今後のあり方について、検討を行い、今までの調査研究の対象である生産

活動を自ら行うことは止め、調査研究の目的（耕畜連携の推進、連作障害の回避のための作目の組合せ、GAP 実践の展示等）を設定し、それに沿った生産活動を計画的に行う生産者（株式会社つくば良農）に農場の農地等（繁殖雌牛、農業機械は譲渡）を提供し、調査研究に資する生産活動を行わせ、研究員はその生産者の生産活動のデータの提供をうけ、それに基づき分析を行う調査研究方法に令和3年度から変更することとした。上記の生産者として、実験農場調査研究生産活動支援事業審査会の審議を経て、株式会社つくば良農を決定した。

## 2 農業及び農村に関する調査研究の成果の普及

1の調査研究の成果を『農業研究』に掲載し、大学等の関係方面に配布するとともに、ホームページに公表したほか、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催が困難となった講演会に代えて、上記研究企画委員会の報告の一部を当研究所研究員との質疑応答を含め、『農業研究』の別冊として、大学等の関係方面に配布するとともに、ホームページに公表した（別添参考1）。

## 3 農業及び農村に関する調査研究の助成

農業及び農村に関する調査研究の将来の担い手に対し、その調査研究に対し助成し、併せてその成果を普及するため、平成19年度から「人文・社会科学系若手研究者助成事業」を実施している。令和2年度については、応募者から3名を選考し助成を行った。この成果は、令和3年度に発刊予定の『農業研究』に掲載する。

- ① 末永 千絵 北海道大学大学院農学研究科 博士課程  
「E コマース企業の青果物販売事業における安定供給体制の成立条件」
- ② 鄧 爾瑩 京都大学大学院農学研究科 博士課程後期  
「中国の草の根の「生態農業」の展開における研究－小規模農家を主体とした多様な経済活動を中心に」
- ③ 山野 薫 一般社団法人農業開発研修センター 嘱託研究員  
「飼料用米および飼料用米を利用した畜産物の流通・販売面における成立要件の解明」

## 4 農業及び農村に関する学術上の顕著な貢献をした者の表彰

第29回（令和元年度）日本農業研究所賞3件（4名）の受賞者に対し、表彰状及び賞金（1件100万円）を令和2年5月に授与した。

なお、定款及び表彰規程の定めるところにより5月11日に開催する予定であった表彰式については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

### 受賞者

（五十音順）

### 研究業績の題名

- |       |                              |
|-------|------------------------------|
| 板橋 久雄 | ウシの第一胃内微生物消化特性の解明とその酪農技術への応用 |
| 大坪 研一 | 米の品種判別および加工利用技術の開発           |
| 田村 俊樹 |                              |
| 瀬筒 秀樹 | 遺伝子組換えカイコの作出とその産業利用の技術的基盤の確立 |

## Ⅱ 収益事業

日本農業研究会館等の当研究所で使用していない部屋を、公益法人等9団体に貸し付けた。

## Ⅲ 法人の管理運営に関する事項

### 1 評議員及び役員等に関する事項

令和2年度の評議員及び役員等は、令和3年3月31日現在、それぞれ次のとおりである。

#### (1) 評議員

岩堀修一	(筑波大学名誉教授)
大杉立	(東京農業大学客員教授)
春見隆文	((一財)日本醤油技術センター理事長)
菊地敦子	((一財)公務人材開発協会代表理事)
古在豊樹	(千葉大学名誉教授)
佐藤洋平	(東京大学名誉教授)
生源寺真一	(福島大学食農学類教授)
染英昭	(穀物乾燥貯蔵施設協会理事長)
西尾道徳	(元筑波大学教授)
濱口義曠	((一社)農山漁村文化協会理事)
藤巻宏	(農業・食品産業技術総合研究機構フェロー)
松川正	(元畜産試験場長)
三輪睿太郎	(元日本農学会会長)

計13名

#### (2) 理事及び監事

理事長	田家邦明	
常務理事	川勝哲	
理事	市田知子	(明治大学農学部教授)
	小澤健二	((公財)日本農業研究所研究員)
	岸康彦	(元(公財)日本農業研究所研究員)
	鈴木昭憲	(東京大学名誉教授)
	竹内克伸	(弁護士)
	南波利昭	(前(公社)畜産技術協会会長)
	西尾健	(法政大学名誉教授)
	松本聰	(東京大学名誉教授)
	八木宏典	((公財)日本農業研究所研究員)

計11名

#### 監事

	高濱正博	(元食品産業中央協議会常任理事)
	吉國隆	((一財)大日本蚕糸会顧問)

計2名

#### (3) 顧問

顧問	服部信司	
----	------	--

## 2 評議員会及び理事会等

令和2年度においては、評議員会、理事会及び監事監査は、次のとおり開催された。

### (1) 評議員会

「第1回（書面決議）」令和2年6月19日（金）

同意した者13名（評議員総数13名）

付議され承認された議案

- ① 令和元年度事業報告及び決算書類に関する件
- ② 理事及び監事の選任に関する件

「第2回（書面決議）」令和3年3月24日（水）

同意した者13名（評議員総数13名）

付議され承認された議案

- ① 令和3年度事業計画書及び収支予算書に関する件
- その他報告事項  
実験農場（茨城県つくば市）における調査研究について

### (2) 理事会

「第1回（書面決議）」令和2年6月4日（木）

同意した者11名（理事総数11名）

付議され承認された議案

- ① 令和元年度事業報告及び決算書類に関する件
- ② 理事長及び常務理事の選定に関する件

「第2回（書面決議）」令和3年3月12日（金）

同意した者11名（理事総数11名）

付議され承認された議案

- ① 令和3年度事業計画書及び収支予算書に関する件
- ② 評議員会の招集に関する件

その他報告事項

実験農場（茨城県つくば市）における調査研究について

### (3) 監事監査

令和2年5月14日（木）

出席者2名（監事総数2名）

付議され承認された議案

令和元年度事業報告及び決算書類に関する件

## 3 職員

令和3年3月31日現在の職員数は、次のとおりである。

本 部 研究員7名、総務部長（兼）1名、参事1名、助手1名

計 10名

実験農場 研究員1名、副場長1名、主任技師1名、主事補1名

計 4名

#### 4 図 書

令和2年度における図書資料の受入れ状況は、下表のとおりである。

##### 令和2年度収書数

区分	雑 誌 等			単行書（冊）			備 考
	和	洋	計	和	洋	計	
購入	124	-	124	15	3	18	
受贈	262	-	262	59	0	59	
計	386	-	386	74	3	77	

##### 蔵書数

区 分	数 量	備 考
単行書前年までの累計数	21,847 冊	
令和2年度廃棄数	0 冊	
令和2年度登録数	82 冊	新刊書
単行書計	21,929 冊	

(注) 資料類には研究報告、紀要、資料等が含まれる。

#### IV 事業報告附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項はないので、附属明細書は作成しない。

## 別 添

### (参考1) 令和2年度における主要調査研究成果

\* 『農業研究』(日本農業研究所研究報告第33号)、令和2年12月、B5、382頁

目次内容

- ・2000年代のアメリカの農業政策の展開とその特質(2)  
ートランプ政権下の農業政策を中心ー(小澤健二)
  - ・平成後期における食料消費の多様化に関する一考察(八木宏典)
  - ・PSE指標から見た主要国農業政策の動向(坪田邦夫)
  - ・北海道にみるネットワーク型農協としての地区農協連合会  
ーオホーツク農協連を事例としてー(両角和夫)
  - ・戦前の自由取引時代の研究から見る米市場の今ー東畑精一が展望したものー(田家邦明)
  - ・自給飼料を利用した和牛繁殖の実証的調査研究(8)(小川増弘、吉沢 哲)
  - ・震災後10年目の津波被災地(宮城県)ー農業経営, 新型コロナの影響ー(森田 明)
  - ・中山間地域の農業公社の課題と可能性ー定点観測3ー2(山浦陽一)
  - ・離島農業における生産額の変化と地域特性に関する分析(小澤 卓)
- (令和元年度人文・社会科学系若手研究者助成事業 研究成果)
- ・農業政策における学校教育への「まなざし」の変容過程  
ー農業体験学習の推進の変遷に着目してー(渡邊 綾)

\* 『農業研究』(別冊)第8号、令和2年12月、B5、157頁

令和2年度日本農業研究所講演会記録

目次内容(敬称略、研究企画委員会開催順)

ヒラから幹部にまで広がる農業従事の外国人労働力

(講師 堀口 健治)

(解題 坪田 邦夫)

生産現場35年からふりかえるー経営変遷のキーとなる雇用事情ー

(講師 小松真知子)

(解題 八木 宏典)

米消費の減少と中食化の世代別分析ー公表の食料消費統計に依拠してー

(講師 青柳 齊)

(解題 小澤 健二)

\* 地域農業事情に関する研究会報告書(主査 田家邦明研究員)

その1 令和2年7月、B5、48頁 「私の農業経営の足跡ー山副孝雄ー」

その2 令和3年2月、B5、57頁 「京都府からみた京丹後市農業の課題ー京都府農林水産部 沼田行博氏ー」

(参考2) 実験農場の和牛飼養頭数と牧草の作付面積及び生産量

1 和牛飼養頭数

(単位：頭)

区 分	期 首	増 加		減 少			期 末	備 考
		生産	繰入	出荷	繰出	譲渡		
繁殖牛	49		0	6		43	0	
育成牛	40	49		48	0	0	41	
合 計	89	49	0	54	0	43	41	

注：区分は以下のとおり

1. 繁殖牛：経産牛及び月齢が14ヶ月齢以上の繁殖もと牛
2. 育成牛：上記1以外の子牛

2 牧草の作付面積及び生産量

(単位：a、トン/10a、トン)

利用区分	草 種	作付面積	単 収	総収量	備 考	べール個数
放牧地	オーチャードグラス、他	630	-	-	一部更新	
採草地	オーチャードグラス、他	390	1.5	58.8		147
	イタリアンライグラス	325	2.4	79.6	新播	199
	リードカナリーグラス	95	1.6	15.2		38
合 計		1,440				384